

## 迫る決済制度改革で

# 包括的な意見交換会

2011.5.27

ニッキン

勉強会が実現した。

メガバンクや証券会

社など17機関の実務担

当者約40人が参加。日

本銀行出身で決済シス

テムに詳しい麗澤大学

の中島真志教授を座長

とし、10年11月～11年

4月に月1回の割合で

計5回行った。講師に

はJGBCOやほふり

の担当者も迎えた。

勉強会では、国債決

済期間短縮化に比較的

多くの時間が割かれ

た。T+2（約定後2

営業日後に決済）化は

現状の事務フローの延

長上で対応可能で、実

務的に大きな問題はな

いとの見方が大勢。一

方で、T+1化は事務  
フローへの影響は大き

く市場インフラ対応の

必要性が議論された。

システム対応は、投

資コストとの兼ね合い

が重視される。ただ、

I SIDは「決済シス

temの改革に伴う国際

標準化が進むことでコ

ストを低減して安定性

を高め、ひいては日本

市場の競争力につなが

る」と強調する。

I SIDは「決済シス

temの改革に伴う国際

標準化が進むことでコ

ストを低減して安定性

を高め、ひいては日本

市場の競争力につなが

る」と強調する。

電通国際情報サービス（I SID）は、決済制度改革の対応を迫られる金融機関を支援する狙いで、銀行、信託、証券など業態を越えて包括的に意見交換できる勉強会を実施。今後もテーマ別に詳細が固まった段階で、議論を深める場を提供したい考えだ。

金融界では、15年度までに①新日銀ネット（ほふり）のISO20022導入——などへの移行②国債決済期間の短縮化③信託銀行の日本国債清算機関（JGBCC）への参

I SIDは、こうし GS流動性管理システム（GSLS）などを決済関連システムへ対応を迫られている。要と判断。「日銀RT

I SIDは、こうし GS流動性管理システム（GSLS）などを決済関連システムへ対応を迫られている。要と判断。「日銀RT

I SIDは、こうし GS流動性管理システム（GSLS）などを決済関連システムへ対応を迫られている。要と判断。「日銀RT

I SIDは、こうし GS流動性管理システム（GSLS）などを決済関連システムへ対応を迫られている。要と判断。「日銀RT